

## 調査結果と解説

## 1 調査概要

### 郵送調査の基礎情報

- ①調査名            金大文学部卒業生の印象・評価についてのアンケート調査
- ②調査対象        文学部生（2008 年 3 月卒業）の就職先
- ③抽出方法        文学部生（2008 年 3 月卒業）の就職先すべて（全数）
- ④標本サイズ      101
- ⑤調査期間        2009 年 1 月 26 日（月）から 2 月 20 日（金）（約一ヶ月）
- ⑥有効回答数      46（回収数 49、うち無回答 3 票）
- ⑦有効回答率      (⑥／④) 45.5%

## 2 単純集計

### 2.1 文学部卒業生をどのように評価しているか（問1）

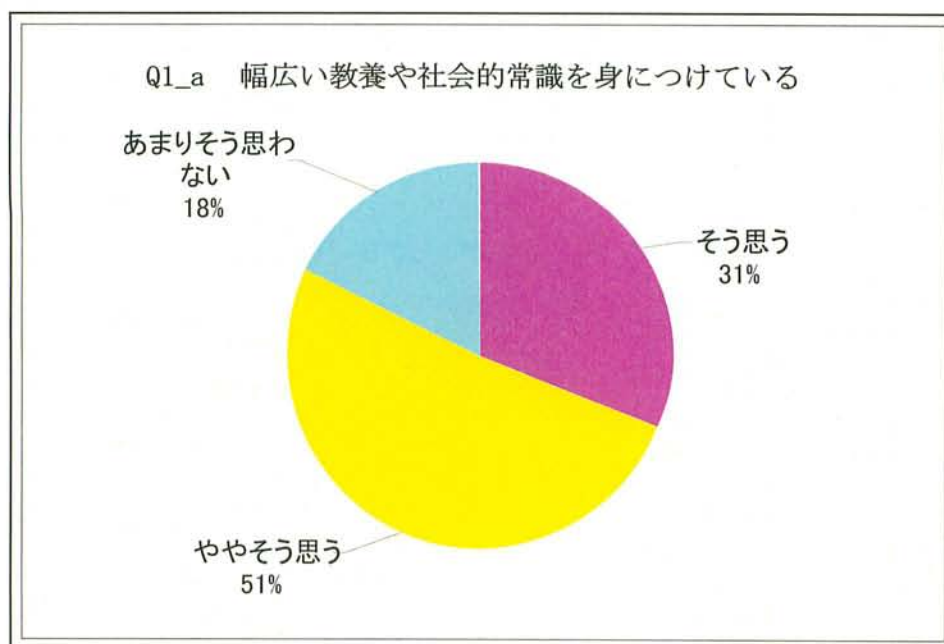


図1 教養や社会的常識（n=45）

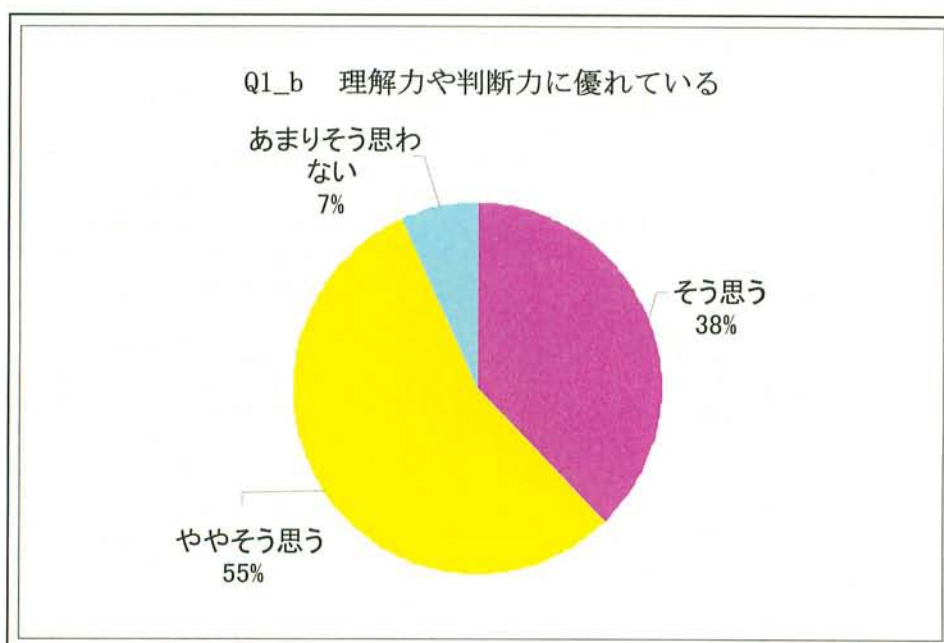


図2 理解力や判断力（n=45）

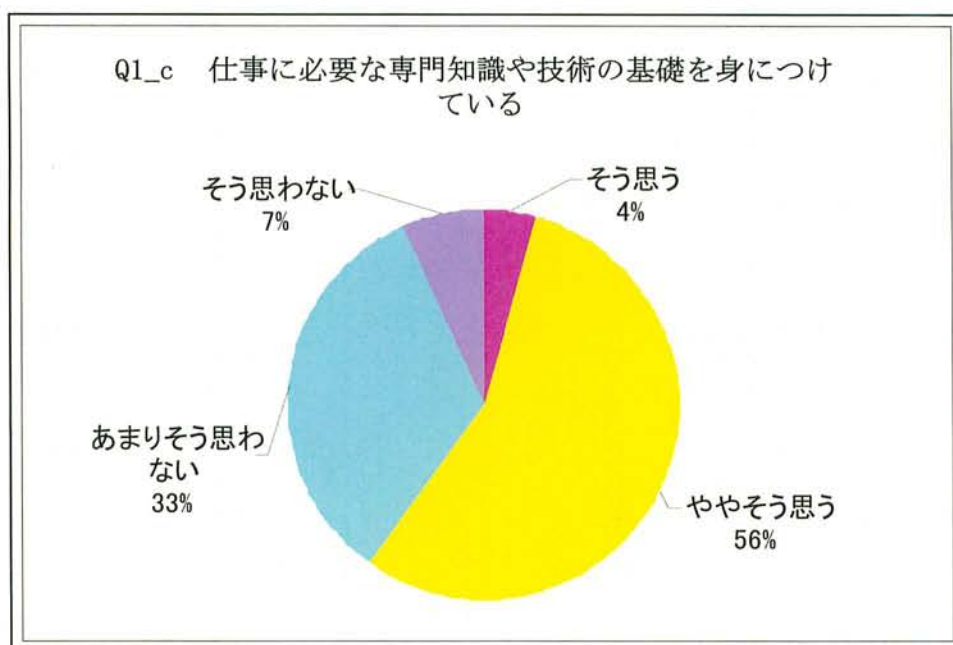


図3 仕事の専門知識や技術の基礎 (n=45)

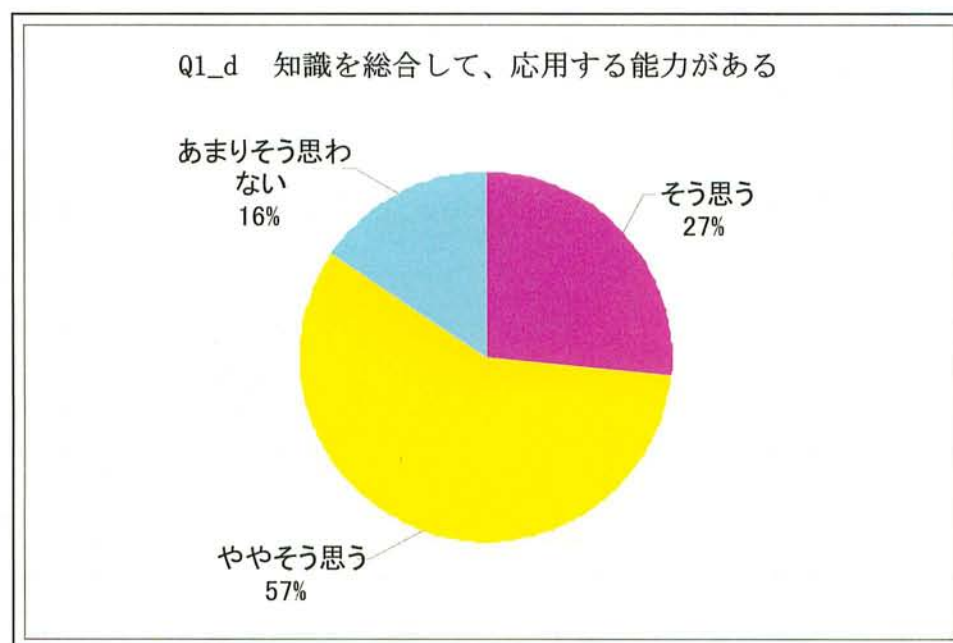


図4 知識の総合と応用 (n=45)

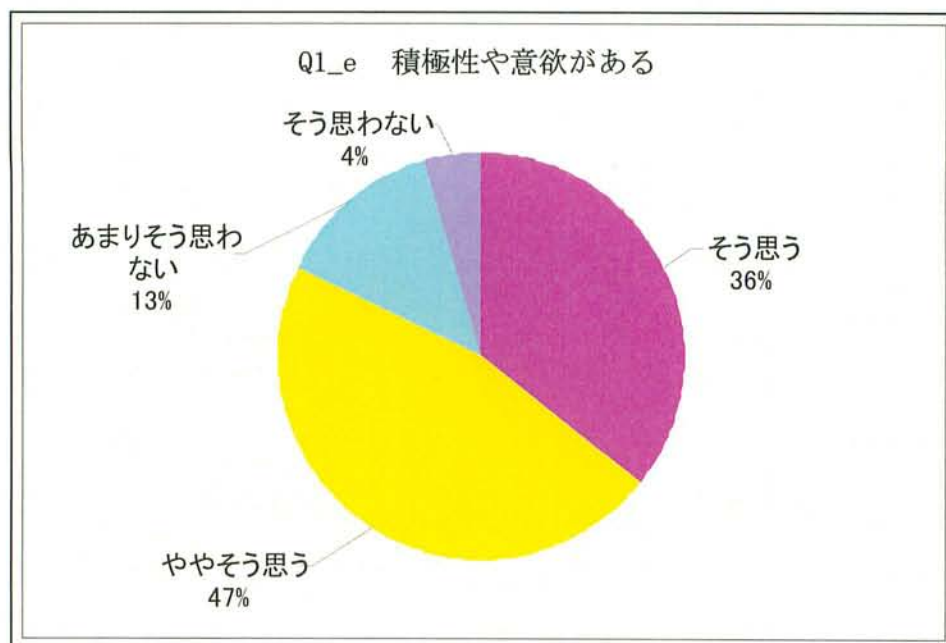


図 5 積極性と意欲 (n=45)

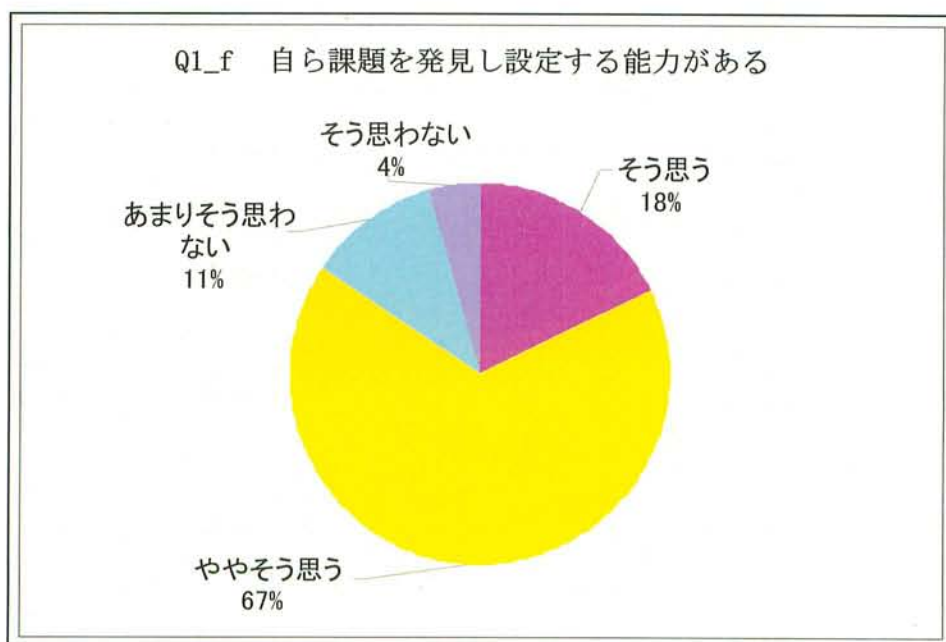


図 6 自ら課題を発見する (n=45)

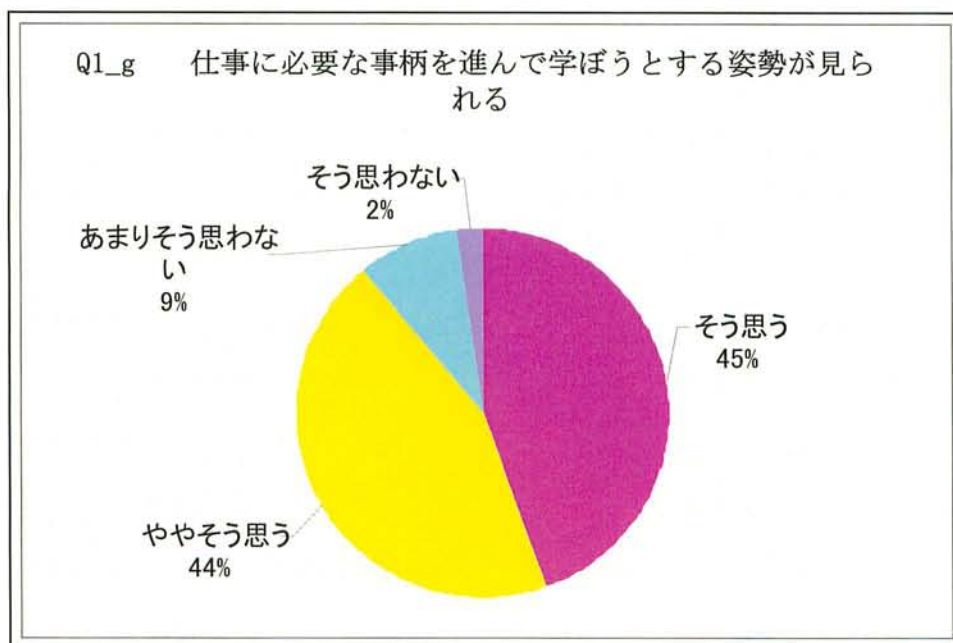


図 7 学ぼうとする姿勢 (n=45)

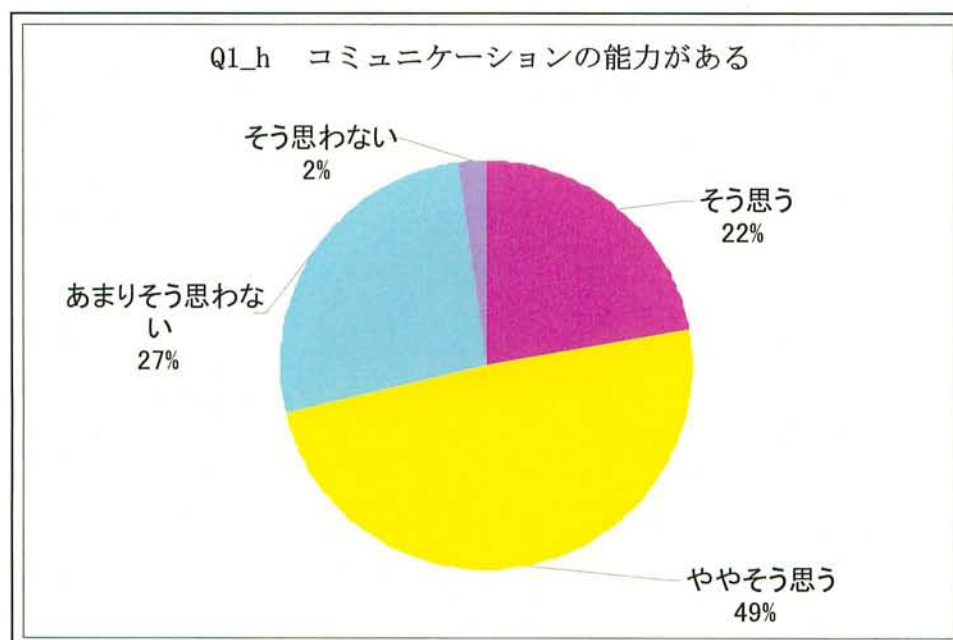


図 8 コミュニケーション能力 (n=45)

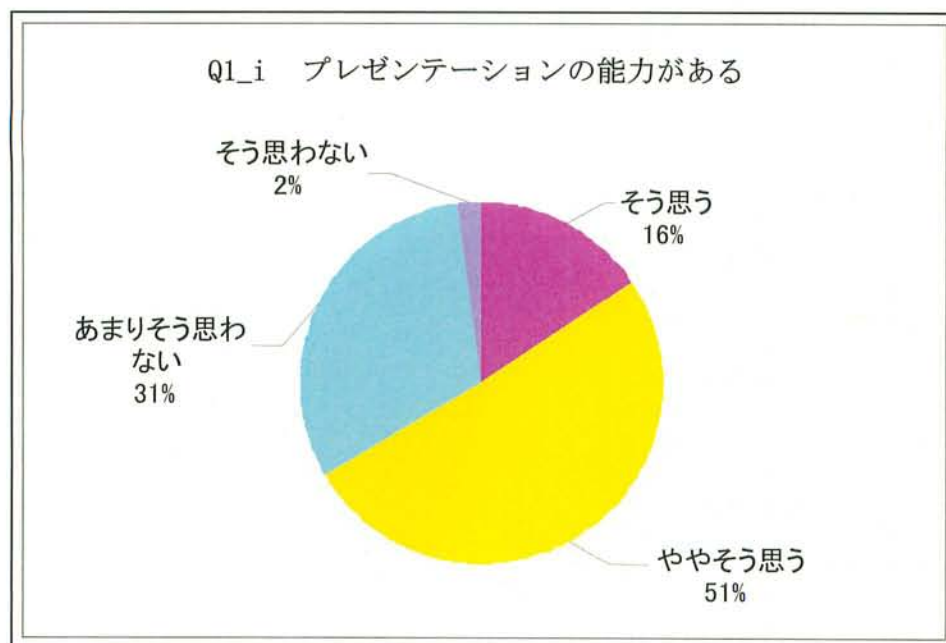


図9 プレゼンテーション能力 (n=45)

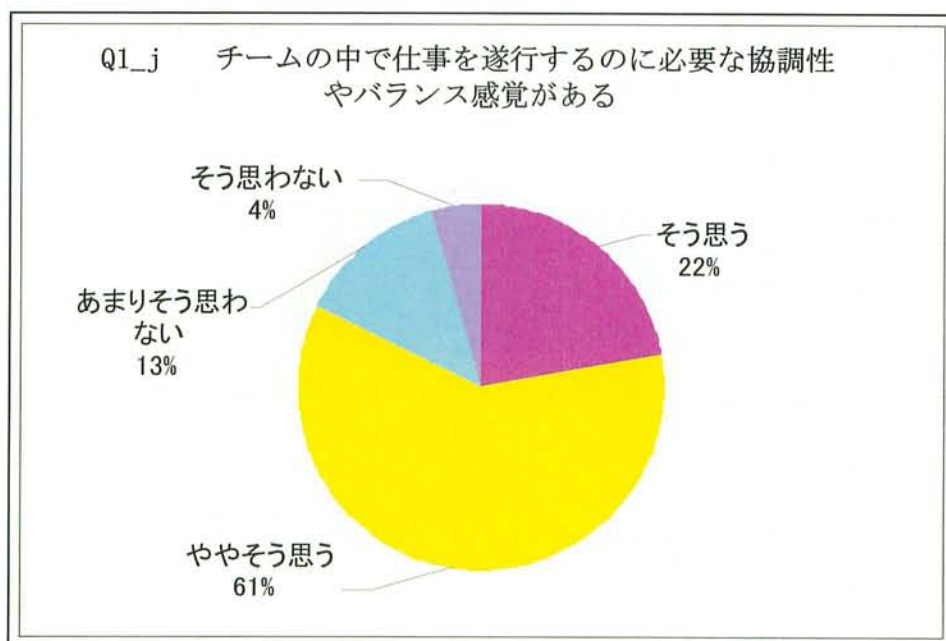


図10 協調性とバランス感覚 (n=45)

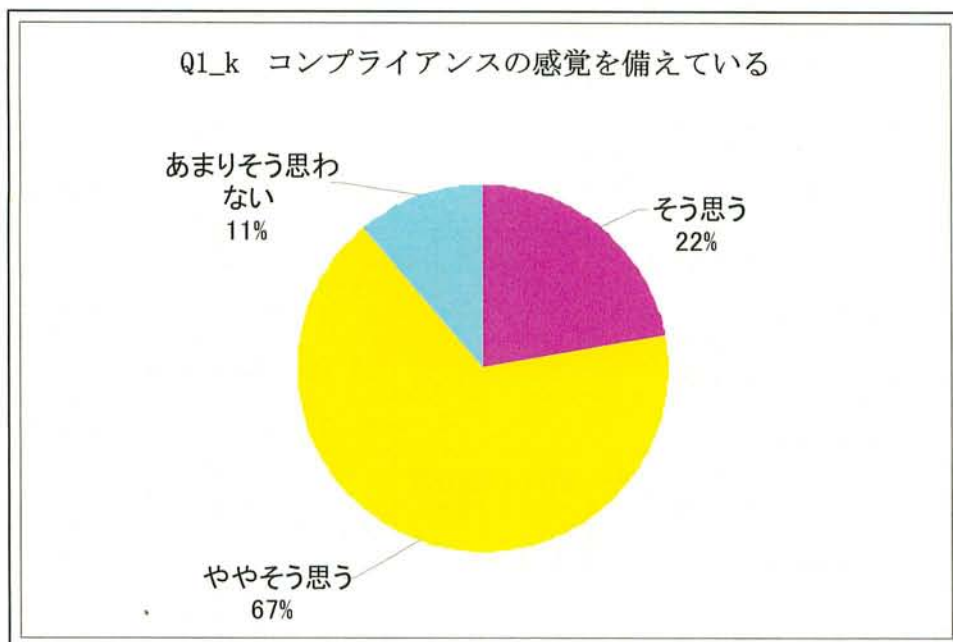


図 11 コンプライアンス<sup>1</sup>の感覚 (n=45)

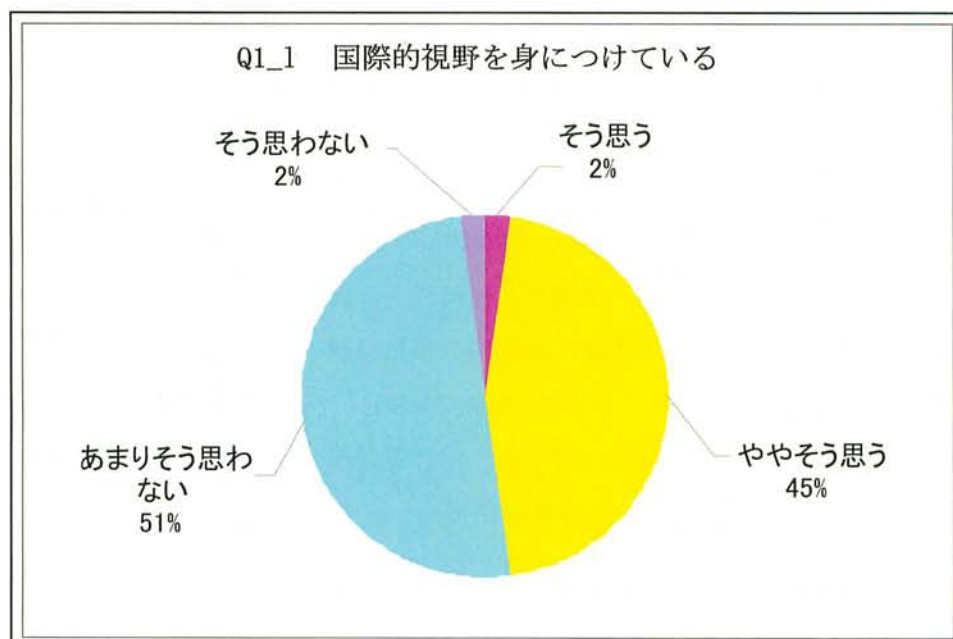


図 12 国際的視野 (n=44)

<sup>1</sup> 「コンプライアンス」は「法令順守」などと訳される。



## 2.2 回答をいただいた企業・団体等の業種（問2）

表1 業種

|                 | 回答数（%）     |
|-----------------|------------|
| 官公庁（教員、学校職員を含む） | 8（17.4%）   |
| 独立行政法人ほか        | 3（6.5%）    |
| 製造業             | 6（13.0%）   |
| 出版・印刷           | 2（4.3%）    |
| 情報通信マスコミ        | 2（4.3%）    |
| 卸売・小売           | 11（23.9%）  |
| 金融・保険           | 2（4.3%）    |
| 予備校、塾などの教育学習関連  | 1（2.2%）    |
| サービス            | 6（13.0%）   |
| その他             | 5（10.9%）   |
| 合計              | 46（100.0%） |

## 2.3 回答を記入した担当部署（問4）

有効回答 46 のうち、45 ケースが担当部署を記入した。その一覧を、以下に示す。

表2 回答担当部署一覧

|   |
|---|
| 研究振興部（国際交流，社会貢献業務）、学術情報部(付属図書館業務)、学部支援課、総務部人事課人事第一係、学校法人事務局、総務課人事係、総務部総務課人事担当、総務部人事開発課、企画管理部職員課、総務部人事第二課、人事部人事課、人事部、総務部人事課、人事部採用チーム、人事採用課、業務部、人事、管理課、広告営業部、業務部、事務部人事担当、採用担当、管理部、経営管理部、総務部、総務部総務課、本社管理部、代表取締役、人事課、人事部採用担当、経営マネジメント室、CSL サポートグループ、人事部採用教育担当、人事部採用研修課、社長 |
|---|

注) 同じ名称の部署は、1 つにまとめた。

## 2.4 自由記述（問3）

文学部卒業生の社会人としての特性・能力についての感想や、本学部への提言などを自由記述していただいた。全回答数は24であった。以下に列挙する。

表3 自由記述

|   |
|---|
| 課題に対してチャレンジする姿勢が見られる。事柄を良く考え、理解しようと努力している。結果として、新たな疑問が生まれ、さらに理解を深めている。業務への柔軟な対応や、業務全体を把握し先を読んだ業務遂行をOJT等を通して養いたい。    |
| 職務に対して真面目で誠実に取組んでいる。また礼儀正しく職務内での協調性も富んでおり、上司からも信頼されている。日常業務においても、業務内容などの確に把握・整理し、理解力が早く、適切な業務遂行にあたっており、今後の活躍が期待される。 |
| 学部や専攻学科にかかわらず、人との接し方、共同作業、前向きな姿勢のある人を育てていただきたい。   |
| いつもお世話になりありがとうございます。  |
| 活発・意欲的な学生が多い様に見られます。ただし、臨機応変な対応がやや苦手かなと思います。今後も期待しております。  |
| ものごとを論理的に考えることには長けていますが、人を尊敬したり、思いやる気持ちが欠けているように感じています。   |
| 2008年初めての採用でまだ良く判らない  |
| 貴校の学生は、弊社それぞれの分野で活躍されておりますが、それぞれ個性があり、一般にこう言う人物と評価できませんでした。全体としては、良きにしろ悪きにしろ、個性があるという点では、一致しております。                  |
| 新入社員として十分な能力を備えていると思います。採用はしていませんが、志望者の中に、志望動機が非常に弱い方がいるのが気になります。   |
| 問1で「3」にマルをつけた項目に関しては、これから教育していく内容であり、意欲がある社員であり、十分期待できます。   |
| 頭脳明晰。理解力は非常に高いと思います。新しい業務にも自分なりに責任を持って対処してくれます。フレッシュな感覚で、業務改善に知恵を活用してくれることを期待しています。                                 |
| 当社は、イベント企画業で幅広い知識・経験が必要です。その中で積極的に取り組み頑張って日々業務に携わり経験を積んでいます。今後も素晴らしい人材になると思っています。                                   |
| 何事にも意欲的でチャレンジ精神がある。   |
| 現在OB・OGが各1名在籍しています。多少おとなしい印象がありますが、両名ともにまじめで誠実な方々です。また、業務改善や新しいチャレンジにも積極的に取り込んでおり、向上心も                              |

|  |
|--|
| 旺盛です。優秀な学生さんが多いので、今後も積極的に採用を検討したいと存じます。今後ともよろしくお願いします。   |
| あまり一喜一憂せず、冷静に判断し、常に落ち着いている、という感想です。現在在籍されているのは男性1名ですが、女性もぜひ採用してみたいと思います。   |
| 08年春に1名入社しただけであり、また10ヶ月しか経過していないので、客観的な評価は非常に難しいと考えます。特に金沢大学の卒業生だから…というわけではなく、入社した1名の現段階での評価です。  |
| 非常にバランス感覚にすぐれていると思います。   |
| 仕事に対してもう少し積極性や意欲を持ってほしい。パソコン知識が十分発揮され、今後楽しみな人材である。農協法に基づく事業である為、金融事業、共済事業、購買事業、販売事業等幅広い分野の事業である為、資格必須の為法律的知識も必要である。                            |
| 御校文学部の卒業生には、非常に真面目な態度で業務に取り組んでもらっております。皆さん、同期のメンバーと比較してみますと、会社の業務知識の理解力や個々の能力は高いと思われます。また、課題を発見し、進んで業務改善をしていくといった積極性が出てくると、社会人として成長されることと存じます。 |
| アルバイト経験等、社会との接点を多くすることで、視野も広がりより応用力のきく人材へと成長するのではないのでしょうか。経済学部OBとしての意見です。  |
| 非常にバランス感覚に優れ、積極的に物事に取り組む姿勢があると思います。またプレゼンテーション能力に優れており、弊社の大事な戦力となっております。今後も金沢大学様の人材に期待しております。  |
| 理解力・判断力は、非常に優れていらっしゃると感じておりますが、対人コミュニケーションの点では、やや消極的傾向が見られます。  |
| より一層のコミュニケーション能力の向上を期待いたします。   |
| 教職に対するたしかな知識を習得するとともに、幅広い社会体験・自然体験等を通して豊かな人間性・社会性を身に付けてほしいと願っています。   |

### 3 解説

#### 3.1 評価について

問1では、卒業生の評価について、以下の12項目にわたって尋ねた。

- 「a. 幅広い教養や社会的常識を身につけている」「b. 理解力や判断力に優れている」  
「c. 仕事に必要な専門知識や技術の基礎を身につけている」

- 「d. 知識を総合して、応用する能力がある」「e. 積極性や意欲がある」  
「f. 自ら課題を発見し設定する能力がある」  
「g. 仕事に必要な事柄を進んで学ぼうとする姿勢が見られる」  
「h. コミュニケーションの能力がある」「i. プレゼンテーションの能力がある」  
「j. チームの中で仕事を遂行するのに必要な協調性やバランス感覚がある」  
「k. コンプライアンスの感覚を備えている」「l. 国際的視野を身につけている」

回答選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」である。

「そう思う」に4点、以下順に、3、2、1点を与えて、平均値を計算した。平均値の高い順に12項目を並べたのが、表4である。

表4 評価の平均値（問1）

| 問1の各項目                   | 平均値  |
|--------------------------|------|
| b. 理解力や判断力が優れている         | 3.31 |
| g. 学ぼうとする姿勢がある           | 3.31 |
| a. 教養や社会的常識がある           | 3.13 |
| e. 積極性や意欲がある             | 3.13 |
| d. 知識を応用できる              | 3.11 |
| k. コンプライアンスの感覚がある        | 3.11 |
| j. 協調性やバランス感覚がある         | 3.00 |
| f. 課題を発見し設定できる           | 2.98 |
| h. コミュニケーション能力がある        | 2.91 |
| i. プレゼンテーション能力がある        | 2.80 |
| c. 仕事の専門知識や技術の基礎を身につけている | 2.58 |
| l. 国際的視野がある              | 2.48 |

注) 標準偏差は省略した。

4つの回答選択肢が1/4ずつ選ばれていれば、平均値は2.5である。12項目のうち11項目は、2.5以上である。回答者の評価は全体として、甘目になっていると理解しておく必要があるかもしれない。本学部に対する信頼とご好意の上に立っての評価と受け取ることもできる。

12項目を4つのグループに分けよう。

(1) 平均点の高い項目

「b. 理解力や判断力に優れている」「g. 仕事に必要な事柄を進んで学ぼうとする姿勢が見られる」

これら2つの項目は平均点 3.31 となっており、高い評価を受けている。能力的な素質はよい、また、まじめな仕事ぶりである、と評価されているようだ。

#### (2) 次に平均点の高い項目

平均点 3.13～3.11 の間に、「a. 幅広い教養や社会的常識を身につけている」「e. 積極性や意欲がある」「d. 知識を総合して、応用する能力がある」「k. コンプライアンスの感覚を備えている」の4項目が位置している。これらは、世間の標準で見れば、無難な水準に達していると評価されている、と解釈したい。

#### (3) 第3のグループ

平均点 3.00～2.91 の間に、3つの項目が位置している。

「j. チームの中で仕事を遂行するのに必要な協調性やバランス感覚がある」

「f. 自ら課題を発見し設定する能力がある」

「h. コミュニケーションの能力がある」

これらの3項目については、まだ伸びる余地がある、と評価されていると考えたい。日常の授業の中で、これらの3項目については、コツコツとトレーニングしてゆけばまだ伸びる余地がある、伸びしろが大きく残っている、とわれわれも感じている項目ではないだろうか。

「組織的な協力的行動」「人から与えられるのではなく、自分で課題を発見する」「コミュニケーション能力」は、われわれの教育活動の中で、意識してトレーニングすれば、学生の力は伸びていくだろうと見通したい。

#### (4) やや低い、あるいは低い評価を受けている項目

「i. プレゼンテーションの能力がある」「c. 仕事に必要な専門知識や技術の基礎を身につけている」はやや低めの評価である。「プレゼンテーション能力」については、その機会を多く作る必要がある。多数の聴衆・出席者を前にして、何らかの内容を発表する機会とそこへ参加する動機付けを工夫する必要がある。

学年や研究室単位で参加する、発表会を学期ごとにつくる、すぐれた発表には賞を与える、などの舞台づくりが必要であろう。テーマは「1年間の経験から」や「研究発表」などが考えられる。「プレゼンテーション能力」涵養のためには、場数を踏ませるのが一番である。本学部には、その環境を整える努力が不足しているのではないか。学外で武者修行してくることも、奨励されるべきである。

本学部は、専門学校ではないので、「c. 仕事に必要な専門知識や技術の基礎を身につけている」項目の評価を上げるために何ができるか、正直言って、即効性のあるプランは考えつかない。多様な仕事に共通する知識・技術が身につくように、教育内容を意識的に再検討する必要があるかもしれない。あるいは、時代の動向も勘案すると、仕事に結びつくような「資格」取得を奨励したほうがよいのだろうか。

「1. 国際的視野を身につけている」項目の評価が極めて低い。この能力を伸ばす方法は、一

朝一夕には見つからないだろう。「留学」「長期の海外旅行」を進めたいが、その方向を視野に入れている学生は少ない。学内には、留学生も少なくない。学部生と留学生の関係を见ていると、歯がゆい思いをすることがある。留学生は出身国ごとのグループを作り、日本人学生は日本人ばかりでかたまる、というもったいないケースをちらほら見かけることがある。

しかし、これは学生一人一人のレベルの問題というよりも、日本社会の構造的問題であろう。なにしろ、ある程度の専門的な仕事ができる外国人を入国させても、また、優秀な留学生に学位を取ってもらっても、かれらがそのまま日本に居つることができる制度および環境を用意しない、適当な時期がきたら早く帰国させることばかりを考えるのが日本社会の現状であるのだから。

(せめて、新聞、テレビなどを通じて国外の出来事に学生たちが関心を持ってくれるとよいのだが・・・。)

表5は、回答選択肢「そう思う」と「ややそう思う」を合併させて、「肯定的評価」とし、各項目ごとに全回答のうちの「肯定的評価」の割合を示したものである。項目の並ぶ順序は、あえて表4の順序と同じにしてある。平均点で見ると、「肯定的評価」の割合で見ると、それほど大きな違いはないことがわかる。

表5 肯定的評価の割合

| 問1の各項目                   | 「そう思う」＋<br>「ややそう思う」 |
|--------------------------|---------------------|
| b. 理解力や判断力が優れている         | 93%                 |
| g. 学ぼうとする姿勢がある           | 89%                 |
| a. 教養や社会的常識がある           | 82%                 |
| e. 積極性や意欲がある             | 83%                 |
| d. 知識を応用できる              | 84%                 |
| k. コンプライアンスの感覚がある        | 89%                 |
| j. 協調性やバランス感覚がある         | 83%                 |
| f. 課題を発見し設定できる           | 85%                 |
| h. コミュニケーション能力がある        | 71%                 |
| i. プレゼンテーション能力がある        | 67%                 |
| c. 仕事の専門知識や技術の基礎を身につけている | 60%                 |
| l. 国際的視野がある              | 47%                 |

表5から窺える回答者の評価は、表4とほとんど変わらない。表4については前述したので、繰り返さない。

### 3.2 業種（問2）

回答をいただいた企業あるいは団体の属する業種は、第1に、「卸売・小売業」（23.9%）、第2に「官公庁（教員、学校職員を含む）」（17.0%）、第3に「製造業」（13.0%）「サービス業」（13.0%）となっている。（ただし、「独立行政法人」「国立大学法人」などを「官公庁」と合併すると、23.9%となり、「卸売・小売業」〔23.9%〕と並ぶ。）近年の文学部卒業生全体の就職先の分布とそれほど大きなズレはないようだ<sup>2</sup>。どの業種からもまんべんなく回答をいただいている。

### 3.3 回答記入者の担当部署（問4）

有効回答46のうち、45ケースが回答記入者の担当部署を明記している。調査票に真摯にご回答いただいたと判断できる。表6をみると、われわれのアンケート調査票が適切な担当部署で扱われたことがわかる。しかるべき担当者が回答しており、信頼できる回答者が記入したと判断できる。（けれども、回答者が誰を評価しているのかは漠然としているので、回答の妥当性について一概には判断できない。この点については、「はしがき」でふれた。）

表6 回答記入者の担当部署

| 回答者の担当部署      | ケース数 |
|---------------|------|
| 1 人事、総務、管理課など | 39   |
| 2 代表取締役など     | 2    |
| 3 その他         | 4    |
| 計             | 45   |

### 3.4 自由記述（問3）

有効回答のうち、52.2%にあたる24ケースが自由記述欄に記入している。

評価だけでなく、期待や育成方針が書かれているケースもある。中には、「今後の採用を検討したい」と記している企業（団体）もある。

自由記述全体の傾向を手短にまとめると、一般的な資質・能力や業務態度に対する評価は高い。しかし、もっと積極的な姿勢を期待したい、コミュニケーション能力の向上を期待する、という回答も見受けられる。ありがたいご指摘をいただいた。

<sup>2</sup> 手元にある『平成19年度就職状況調査書』と比べると、「金融・保険」からの回答が少ないようだ。

### 3.5 結論

このアンケート調査は、回答者がどういう範囲の卒業生を評価しているか、回答者ごとに異なる可能性があるという点などで、難点のある調査である。このことを念頭に置いて、調査結果を解釈する必要がある。

とはいえ、回収率の高さ、記入者の担当部署の適切さ、自由記述に込められている企業（団体）側の熱意と真剣さなどを考慮すると、この調査結果はまじめに取り扱われるべきであると受けとめたい。

調査結果から読み取れる評価を要約する。本学部卒業生は、社会的常識・理解力や判断力・応用力・積極性や仕事に関する学習意欲・協調性・コンプライアンスの感覚などがある、と企業（団体）は判断しているようである。一方、コミュニケーション能力などはやや低く、プレゼンテーション能力はさらに低く、仕事に必要な専門知識や技術の基礎は不十分である、と評価されている。国際的視野の欠落がシビアに指摘されている。

われわれの対応策としては、前述したことの繰り返しになるが、たとえば次のような方向やプランが考えられる。

- （1）コミュニケーション能力については日ごろから、双方向の対話を重視すること。受け身で人の話を聞くだけの学生は育成しないように努める。プレゼンテーション能力については、場数の経験が効果をもつので、テーマをきめて発表大会を学内で開催する。オープンキャンパスの時期にあわせることが考慮されてもよい。

他大学との共同の発表大会を開催することも考えたい。

- （2）仕事に結びつく専門知識や技術の基礎は、（卸売・小売業、また公務員系の場合を考えると）文学部では提供しにくい内容である。しかし、文学部とはいえ何らかの方法で、（国家）資格取得のバックアップに踏み切る時期に差しかかっているのかもしれない。
- （3）国際的視野の育成については、社会の構造的な問題の影響を強く受けており、1大学1学部の手に負える問題ではないかもしれない。日本に住むわれわれ全体の問題と受け止める視点が不可欠であろう（コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力についても同様かもしれない）。すぐに対応できる問題ではないとしても、国際的視野の欠落の指摘があったことを忘れないようにしたい。

本学部の教育内容の再検討に、本調査結果が活用されることを期待する。